



国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林総合研究所四国支所 公開講演会

▶ オンライン開催

四国の森のつくりかた

― 森をはぐくむ土と水 ―



四国の森林面積は約140万ヘクタール、陸地全体の約7割が緑に覆われています。そのような豊かな森林がある背景には、四国の地形、地質、土壌、水の循環といった環境条件が、他の地域と比べて特徴的であることが挙げられます。そのため、地質形成や過去の植生がどのようなものであったかを知ること、現在の四国の森林をより深く理解することができます。

この講演会では高知大学からお二人の先生をお招きして、四国の森林をかたち作る土台となっている地形、地質、土壌、水そして植物に焦点を合わせて最新の研究成果を紹介したいと思います。

令和3年

12月1日 (水)

配信開始予定



森林総合研究所四国支所ウェブサイト特設ページからアクセスしてください。

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/skk/shishoshokai/event/r3koukaikouennkai.html>



国立研究開発法人森林研究・整備機構



森林総合研究所

四国支所 地域連携推進室
〒780-8077 高知市朝倉西町 2-915

TEL 088-844-1121(代) FAX 088-844-1130

E-Mail koho-ffpri-skk@gp.affrc.go.jp URL <https://www.ffpri.affrc.go.jp/skk/>



四国の森のつくりかた

－ 森をはぐくむ土と水 －

開会によせて

岡 輝樹 森林総合研究所四国支所長



表層土壌の調査



マツ花粉



講演1「四国の地質と環境変遷史」

岩井 雅夫 高知大学海洋コア総合研究センター教授

長谷川 精 高知大学理工学部地球環境防災学科講師

四国は、北に広がるユーラシア大陸プレートと、南に広がるフィリピン海プレートの境界部に位置し、四国山地に代表されるように東西に山々が連なった地形をしています。この地形に沿って、1億年以上の年月をかけて作り出された地質帯が帯状に分布しており、多様な植生・生態系が育まれてきました。本講演では、四国の地形・地質について概説するとともに、“大地の公園” ジオパークの活動について紹介します。また四国～東アジア域における環境や植生の変遷史についても紹介します。

講演2「四国における土の特性値マップ」

山下 尚之 森林総合研究所立地環境研究領域
土壌資源研究室主任研究員

近年、花粉飛散、豪雨、土砂災害リスクなど、様々な「マップ」による情報を目にする機会が増えています。まだあまり知られていませんが、森林の土についても、気候変動に関わる炭素の蓄積や防災に関わる土の厚さなど「土の特性値マップ」が作られています。現在取り組んでいる様々なマップの作成について、四国の例をお示しながらご紹介します。

講演3「おいしい水を育む森林」

稲垣 善之 森林総合研究所四国支所
森林生態系変動研究グループ主任研究員

私たちが利用する水道水の多くは森林の渓流水を起源としています。渓流水は、酸性度は中性で、適度なミネラルを含み、窒素やリンはあまり含まないという性質があり、おいしい水になっています。どうして渓流の水はおいしいのでしょうか？その秘密は森林のなかの物質のうごきにあります。今回は私たちが長年研究している四万十川流域の森林の物質のうごきに注目しておいしい水の謎を解き明かしたいと思います。

講演4「四国のもりのうつろいと人の関わり」

志知 幸治 森林総合研究所四国支所
森林生態系変動研究グループ主任研究員

現在、四国の森林はスギやヒノキの人工林に広く覆われていますが、これは長年に渡って人が山に手入れを加えた結果と言えます。では、人の影響が及ぶ以前にはどのような森林が広がっていたのでしょうか？数千から数万年前に広がっていた森林の特徴について、過去の気候変動との関係から紹介します。また、人がどのように関わった結果、現在の森林へと変化していったのか、花粉化石のデータや絵図などを示しながらお話しします。